令和６年度　　第１回　学校運営協議会

令和６年７月１０日（水）

第１部

１　校長　あいさつ

２　委嘱状交付

３　委員自己紹介

４　会長、副会長選出

第２部

５　学校運営に関する基本的な方針等の説明と承認

○　木崎小学校の教育活動について（学力向上、安心安全、地域とともにある学校づくり、教員の資質向上、心の教育）

いじめ案件ついては、校長を中心に迅速に対応し、その日のうちに方針を決定している。

○　予算執行計画について

○　家庭学習ガイドラインについて

○　つけたい力をつけるにはどうしたらよいかという視点で作成した。

宿題と家庭学習を合わせて自主学習と捉えている。

○　いじめやトラブルはできるだけ速やかに、正確に把握し、その日のうちにある程度の結論が出せるようにしたい。

学校は事態をしっかり把握し、こういう動きをしているということを保護者に理解してもらうなど、保護者を不安にさせないことが大切と考える。

○　学校はその子本人をよく知っていることが大切であり、また、学校としての解決能力を育てていくことが大切と考える。誰かに任せてしまう傾向もあるが、組織的に取り組んでいくようにしたい。

○　SNS 上のトラブルについて

○　心の成長は目に見えない難しさがある。被害、加害の両者も学校が育てていく必要がある。そのため、本当の解決までには長い時間がかかることを保護者も共通理解することが

大切である。

○　保護者は学校をよく知らない面もある。例えばSNSのトラブルは主に学校外で起こっており、本来は家庭で解決すべきだが、学校に対応が持ち込まれてしまうことも多いと感じる。

○　先生方の保護者対応などを軽減し、本来の子どもたちが学べる環境をつくってもらうことが大切だと思う。先生方が効率よく、効果を上げるための工夫があるとよい。

○　例えば、トラブルが連絡帳を通して担任に伝わると、学年主任に報告し、校長に伝わる。その後は保護者の思いや保護者間の解決の道筋も予想して解決に向かう。

児童への聞き取りは担任と主任が行うので、その間の授業をどのように進めるかも課題となってくる。

○　学校運営協議会の各委員が、それぞれの立場を意識して連携を図ることが子どもの力をつけることにつながってくる。

本年度の学校運営に関する基本的な方針の仮承認については全会一致で承認

6　熟議

「ありがとう」のあふれる学校、地域を目指して学校・家庭・地域それぞれ何ができるか

○　「ありがとう」のあふれる学校について自治会でも広めていく。

○　数量化は難しいが、育成会でも「ありがとう」の言葉が増えている。

○　どこで「ありがとう」と言うかチャンスを見付けている。

○　親が「ありがとう」と言えば自然と子どもも「ありがとう」と言う。簡単なことでいいから一つのことをみんなでやっていくことが大きな力になる。まずは言葉に発し、「ありがとう」と言える行為、場面を見逃さないようにしたい。

令和６年度　　第２回　学校運営協議会

令和６年１２月１０日（火）

第１部

１　校長　あいさつ

２　購入物品について

○１年生であることが分かるように黄色帽子を継続して使用していきたい。

男女の区別なく形を選択できるようにしたい。

購入の選択肢を増やす目的で、従来の納入業者のほかに一般に販売されているものを購入してもよいこととしたい。

○選択できることはよいことだと思う。

○選択した結果、他の児童との差異を指摘されることも懸念される。

○車を運転する立場からすると、黄色帽子が１年生と分かることで運転に注意を払うようになる。

○選択した形の他の児童との差異については、２年生からは形も自由になるので他の子との差異も気にならないと思う。

○来年度の様子を見ながらさらに検討を重ねていきたい。

○幼稚園で使っている体操服を１年生の初期にも使えるとよいと思う。ラインやワンポイントが入っているが大丈夫か。

○ラインやワンポイントが入っていても可とする。また、今まで使っていたものも可能としたい。

○色について、遊びと体育の授業という指導上の区別をつけたいが、白でなければいけないというわけでもない。

○白色はけがをしたときに、けがの部位が分かる利点はある。

○ズボンの色は現在使用している緑色を継続することで、運動会など大勢が集まる中でも本校の児童であることが分かる利点もある。

3　校外学習について

○カリキュラムの見直しとバス代高騰への対応を考慮し、偶数学年でバスを使用する校外学習を考えている。

○徒歩遠足は、順延の対応が容易である。

○児童数増加に伴い見学場所の確保も困難になってきている。

○支払いの方法も金銭事故防止の観点から、学校が集金をする方法（児童が現金を持参する）から保護者が直接振り込むなど支払い方法も変更している。

4　学校評価について

○いただいたご意見を学校運営に生かしていきたい。

○アンケートを行う順番は保護者と児童を先に行い、教職員はその後に行うことで学校運営の改善につなげていきたい。

第２部

5　熟議

○「ありがとうのあふれる学校」をもう少し目に見える形にするためにはどうしたらよいかを考えていきたい。

○「ありがとう」ポストを設置活用して、ありがとうの言葉が自然と広がっていく環境が整えられるとよい。手紙を書くことにより、うれしかった気持ちが伝わると思う。

○学校運営協議会の各委員が、それぞれの立場を意識して連携を図ることが、子どもの力をつけることにつながってくる。

第３回木崎小学校運営協議会　議事録

令和７年２月12日

第１部

１．校長あいさつ

１５０周年記念式典お礼

来年度の見込み児童数　約１０３０名

令和７年度の変更事項

①校外学習バスを使わず徒歩遠足へ

②朝の時間・・・学習時間確保のため集会活動は火曜日の昼間

③通知票の所見　１，２学期保護者面談で

２．学校評価の結果

児童アンケート　　８割以上肯定的回答

昨年度と同様な傾向

１２．困りごとをいつでも相談できるか？　８０％を下回っていた

日頃から児童のSOSを察知できる取組を行いたい

SOSを出せる児童に育てたい

地域を好きな児童が増えたのは、１５０周年記念事業の効果

保護者アンケート　自主学習、宿題に関するアンケートではマイナス回答が多かった

自分で計画を立てて見通しをもつ力は大切

施設設備の不備について、市役所に報告済み

あたたかい言葉の評価が多かった

あいさつ、ありがとうのアンケート項目で児童、保護者、教職員で評価のずれがあった

（委員A）

〇木崎小学校が好きですか？→多数が肯定的回答ですばらしい

ある集団の雰囲気が変わることは、コミュニケーションが取れている証

子どもたちの笑顔が目に付くようになってきた

〇地域が好きですか？→多数肯定的回答については、校長が１５０周年という冠をつけて行事を行っていくと宣言し、その通りに実行したことで、児童の意識が変わってきた

〇１５０周年記念事業では、見事に家庭、地域、学校が連携できた

〇自主学習を子どもたちにさせることについて

・宿題を出さないで、自主学習をさせるためには、「学習相談」の時間が必要

・ちょっとした工夫→学習シートを積み上げていく等、教師の日頃の働きかけが大事

（委員B）

〇地域が好きですか？成果が上がった理由は様々な事業のおかげ

計画して楽しんだことは、思い出に残る

学校の成果をみて自治会活動を頑張ろうと思った

〇学習についても成果が見えてくれば、保護者の理解も得やすい

３．学校自己評価システムシートについて

〇自律した学び　教員は日々研究している

〇「ありがとう」についての意識に児童と教職員で乖離がある　次年度の課題である

〇今年度、大きな事故は特になかった　危機管理の徹底を続けていきたい

〇地域とともにありたいと常々思っている、敷居の低い学校を目指している

〇教職員の資質向上について、授業に関することなど、児童からの評価はよかった。

〇いじめ報告について　４件→０件、すべて解消

〇「Sola るーむ」をよりよい活用方法について今後も取り組んでいく

〇自主学習の取り組ませ方が課題である

〇施設設備は教育委員会と連携を図っていく

（委員 C）

〇Sola るーむの場所や雰囲気について

〇Sola るーむにふさわしい環境を整備してほしい

　自然に集団に戻ってほしい

〇今の義務教育の雰囲気が継続していくことに不安を感じている

〇中学校では不登校問題にどうかかわっているか？

（委員 D）

〇コロナ以降明らかに増えた不登校の生徒数

〇学校か家の２択だったのが、居場所づくりの数を増やしている行政

〇コロナの後遺症から脱却したい

〇一斉授業から個別最適化の授業へマインドチェンジ

〇「学校運営に関する基本的な方針の承認」について、仮承認を受けた

４．いじめ対策と現状について

（生徒指導担当）

〇未然防止に向けた積極的生徒指導

〇全校でほっこりポストの取組を行い、児童の心を満たして未然防止に努めている

　ポスティングされたエピソードは放送で読みあげている

〇いじめ反対、絶対に許さないというポスターを全教室に掲げている

（委員 E）

〇それを、保護者や地域に見えるようにしてほしい

（委員 F）

〇限られた児童でなく、多くの児童がポスティングしているのか？

（生徒指導担当）

〇多くの児童がポスティングしていて、その取組が広がっている

５．Ｃ・ＳとＳＳＮの一体的推進にかかる事例集について

〇事例紹介

第２部

６．開会宣言（会長）

７．熟議

「ありがとう」のあふれる学校、地域を目指して

～学校・家庭・地域でできる具体的な取組は何か～

（学校）

子どもに感謝の念を定着させたい

ありがとうの対象となる事象に気付かせたい

その時の、気持ちのことについても気付かせたい

そのために、感謝を見える化したい

熟議

①「感謝」という概念が定着するとそれに付随してどんな心が育つか？

・人間関係の充実が図れる

・仲良くなれる、距離が縮まる

・自然発生、自己有用感

・やる気、意欲につながる

・やさしさ、思いやりの心

・豊かな心

②学校では何ができるか？見える化。家庭に何を協力してもらうか？

・「ありがとう」を言われるとほんのわずかなことでもうれしい気持ちになる

・その子の幸福感につながる取組

・幼稚園が取り組んでいること・・・人と人との関係性を先生が見逃さない

・どこへ向けての「ありがとう」なのかを分類する子どもたちの目、頭がどこに向いているのか

・ＨＰで保護者からのありがとうを集める

・ありがとうの木

・ありがとうを生み出す思いやり、存在感を高めていくきっかけ

・カード

・ありがとうの木を写真でとって地域の幼稚園、自治会にお届けして広報活動する

８．閉会宣言（会長）